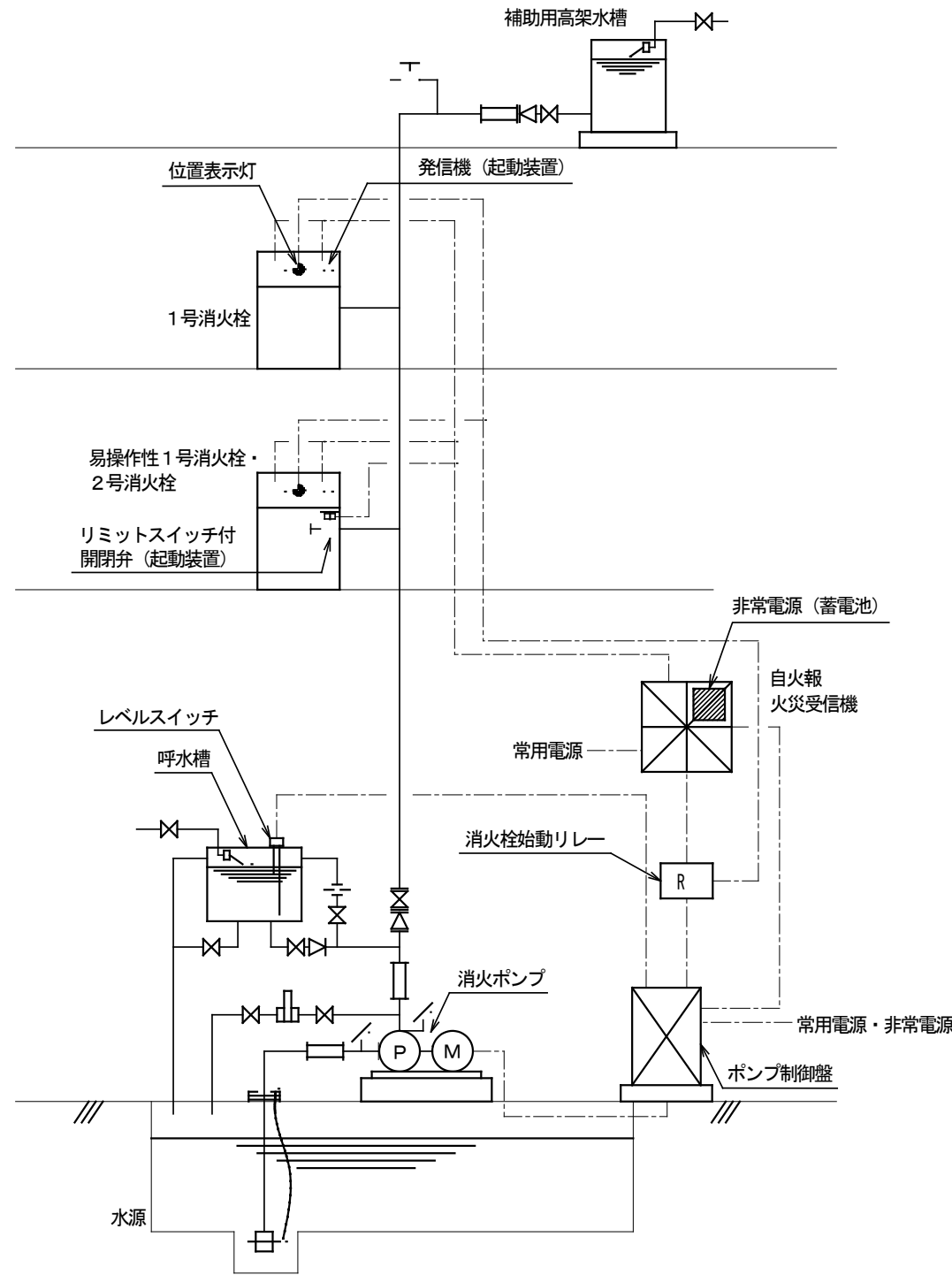


2. 停電時における消火設備の取り扱い

2-1 消火栓設備

2-1-1 屋内消火栓設備



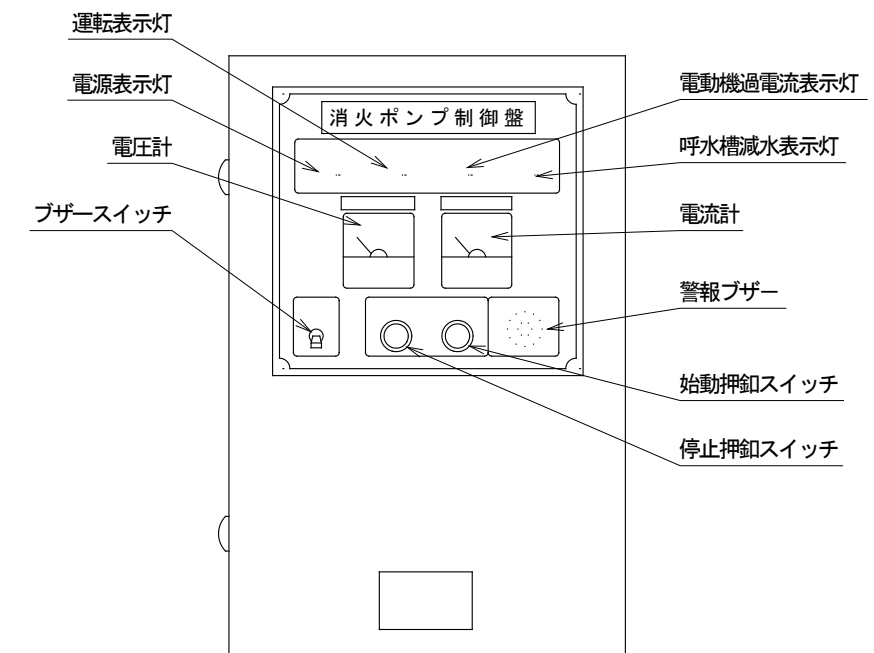
屋内消火栓設備の系統例

停電時

発生する事象	停電後	<ul style="list-style-type: none"> 消火ポンプの電源が遮断され、自動的に非常電源からの電源供給に切り替わります。運転中に停電し一旦電源供給が遮断されても、非常電源に切り替わると自動的に消火ポンプが起動・継続運転します。 消火ポンプの非常電源が、非常電源専用受電設備の場合は、停電直後から消火ポンプの起動ができなくなります。 消火ポンプの電源が非常電源に切り替わる際に、消火ポンプの電源断の表示および警報が发せられる場合があります。 消火栓箱上部に設置されている赤色の位置表示灯は火災受信機から電源供給（自火報設備が持つ非常電源による電源供給）が継続されます。
	非常電源供給終了後	<ul style="list-style-type: none"> 消火ポンプの電源が完全に遮断されると消火ポンプが起動できなくなり、また消火ポンプの電源断の表示および警報が、火災受信機などに発せられる場合があります。 火災受信機からの電源供給が完全に遮断されると、消火栓箱上部に設置されている位置表示灯が消灯します。
必要な対応	<ul style="list-style-type: none"> 非常電源供給終了後は屋内消火栓設備が使用できないため、人により火災を警戒する等の対応をしてください。 	

復電時

発生する事象	<ul style="list-style-type: none"> 消火ポンプの電源供給が自動的に再開されます。 消火栓箱上部に設置されている位置表示灯の電源供給が自動的に再開され、位置表示灯が点灯します。
必要な対応	<ul style="list-style-type: none"> 自動で設備が復旧しますので、対応が必要なことはありませんが、制御盤類の状態（表示灯、スイッチ位置等）が正常であることを確認してください。 自家発電設備を運転した場合の対応は、同設備の取扱説明書によってください。



ポンプ制御盤の例

※非常電源が設置されていない場合もあります。非常電源の有無および種類を確認してください。非常電源の容量は、30分間設備を使用できる容量となります。詳細については、対象となる実設備の取扱説明書などをご確認ください。